

平成26年度登録販売者試験問題（午前）

指示があるまで開いてはいけません。

受験番号

氏名

平成26年8月31日

和歌山県

注意事項及び答案用紙の記入について

- 1 問題は10時から12時までの120分間で解答してください。
- 2 問題は2項目で60問あります。
また、ページは1ページから39ページまであります。
- 3 この試験の医薬品の名称及び成分名は、厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き(平成26年3月)」に基づいています。
- 4 答案用紙は、直接機械にかけますので、折り曲げたり汚さないようにしてください。
- 5 受験番号、氏名を問題及び答案用紙の所定の欄に忘れず正しく記入してください。
答案用紙には、受験番号を1ケタごとに該当する[・]をマークしてください。
- 6 鉛筆は、HBを使用してください。
訂正するときは、消しゴムできれいに消してください。
- 7 答案用紙は、解答番号がすべて1から5まであります。問題によっては、解答の選択肢が1から4までの問題があるので、注意してください。
- 8 回答は1つです。2つ以上マークした場合は、誤りになります。
- 9 [・]にマークするとき、枠外へはみ出さないようにしてください。

答案用紙の記入のしかた

受験者氏名				
和歌山 太郎				
受験番号				
0	1	2	3	4
■	E0	E0	E0	E0
E1	■	E1	E1	E1
E2	E2	■	E2	E2
E3	E3	E3	■	E3
E4	E4	E4	E4	■
E5	E5	E5	E5	E5
E6	E6	E6	E6	E6
E7	E7	E7	E7	E7
E8	E8	E8	E8	E8
E9	E9	E9	E9	E9

←氏名を記入

←受験番号を記入

←受験番号をマーク
上の数字に該当する[・]をマークして下さい。

問1 和歌山県庁の所在地は次のうちどれか。

- ① 橋本市
- ② 和歌山市
- ③ 有田市
- ④ 新宮市

問題番号	解答番号
問1	E1 E2 E3 E4 E5

問1の正解は「②和歌山市」ですから、答案用紙の問1の[2]を上のようにマークして下さい。

(注)マークの仕方

よい例

E2	E3
----	----

悪い例

E2	E3
----	----

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 1

医薬品に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は、すべてが解明されている。
- b 医療用医薬品と比較すると、一般用医薬品の方が保健衛生上のリスクが相対的に高いと考えられる。
- c 医薬品の販売を行う者は、製造販売業者等からの情報に日頃から留意しておくことが重要である。
- d 医薬品は、有効性、安全性等に関する情報が集積されており、随時新たな情報が付加されるものである。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 2

医薬品のリスクに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 本来、疾病の治療を目的として使用される医薬品も健康被害を生じることがある。
- b 医薬品の効果とリスクは、薬物暴露時間と暴露量との和で表現される用量-反応関係に基づいて評価される。
- c 動物実験では50%致死量(LD50)を求めることが可能であるので、薬物の有効性の指標として用いられる。
- d 少量の医薬品の投与であれば、発がん作用、胎児毒性や組織・臓器の機能不全を生じない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問3

医薬品の安全性基準に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a Good Laboratory Practice (GLP) は、医薬品の非臨床試験における安全性の基準である。
- b Good Vigilance Practice (GVP) は、ヒトを対象とした医薬品の臨床試験における効果と安全性の国際的な評価基準である。
- c Good Post-marketing Study Practice (GPSP) は、医薬品の製造販売後の調査及び試験の実施基準である。
- d Good Clinical Practice (GCP) は、医薬品の製造販売後安全管理基準である。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問4

健康食品に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 健康食品という言葉は健康増進や維持に有用な食品全般をさすものであり、社会に広く使用されている。
- 2 健康補助食品（いわゆるサプリメント）は、誤った使用をしても、健康被害を生じることはない。
- 3 栄養機能食品については、各種ビタミン等に対して「栄養機能の表示」ができる。
- 4 健康補助食品（いわゆるサプリメント）の中にはカプセル、錠剤等の医薬品と類似した形状で発売されているものも多い。

問5

医薬品の副作用に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の(a)内は、どちらも同じ字句が入る。

我が国では、副作用の定義を「許可医薬品が(a)な使用目的に従い(a)に使用された場合においてもその許可医薬品により人に発現する有害な反応」としているが、世界保健機関では、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、(b)で発現する医薬品の(c)反応」としている。

	a	b	c
1	適正	人に通常用いられる量	有害かつ意図しない
2	適正	人に過剰に用いられる量	有害かつ予想される
3	不適正	人に通常用いられる量	有害かつ意図しない
4	不適正	人に過剰に用いられる量	有害かつ予想される
5	不適正	人に過剰に用いられる量	有害かつ意図しない

問6

医薬品によるアレルギー(過敏反応)に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 アレルギーは、必ず医薬品の薬理作用と関係して起こる。
- 2 アレルギーは、医薬品を十分注意して適正に使用すれば、生じない。
- 3 アレルギーには、体質的・遺伝的な要素もある。
- 4 アレルギーは、内服薬では起こるが、外用薬では起こらない。

問7

医薬品の投与量と効果または毒性に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品の投与量と効果または毒性の関係は、薬物用量を (a) させるに伴い、効果の発現が検出されない (b) から、最小有効量を経て (c) に至る。

	a	b	c
1	減少	無作用量	中毒量
2	減少	無作用量	治療量
3	増加	無作用量	治療量
4	減少	最小致死量	中毒量
5	増加	最小致死量	中毒量

問8

医薬品と食品との関係に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 食品によって作用や代謝に影響を受けない医薬品の投与法は、外用や注射である。
- b 医薬品の効き目や副作用に影響しない食品として、医薬品的な効能効果が標榜^{ぼう}されていない食品（ハーブ等）がある。
- c ビタミン剤の作用は、栄養機能食品との併用によって増強されることがある。
- d コーヒーとカフェインを含む医薬品を飲み合わせると、カフェインの過剰摂取となることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問9

医薬品の使用に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品を、定められた用量を意図的に超えて服用したり、みだりに酒類と一緒に摂取するといった乱用がなされると、過量摂取による急性中毒等を生じる危険性が高くなる。
- 2 一般用医薬品の使用にあたっては、重大な副作用の兆候が現れた場合であっても、使用の継続による疾病の回復が、通常、優先される。
- 3 医薬品の有効成分だけでなく、薬理作用がない添加物もアレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）となり得る。
- 4 一般用医薬品には、習慣性・依存性のある成分が含まれているものがあり、乱用された場合は薬物依存を生じることがある。

問10

高齢者が一般用医薬品を使用する場合に注意すべきことに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品を添付文書通り服用しても作用が強すぎると判断される場合には、既定用量以下で服用を続けさせたほうがよい。
- b 高齢者の一般用医薬品の服用は、若年者の半分程度の量からはじめ、効果をみながら増量や減量しなければならない。
- c アレルギー用薬のジフェンヒドラミン塩酸塩には抗コリン作用があり、口渇から誤嚥^{えん}を起こすことがある。
- d 高齢者は、何らかの持病(基礎疾患)を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって、治療の妨げとなる場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 1 1

小児が使用する一般用医薬品の販売に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 大柄で青年のような 12 歳児が、小児用の解熱鎮痛薬を希望したので、登録販売者は体格からほぼ大人と判断してアスピリンを販売した。
- b 小児は、肝臓や腎臓の機能が活発であるため、医薬品の代謝や排泄が早く効き目が弱くなる場合があると説明した。
- c 小児における用量の設定がない一般用総合感冒薬を、7 歳児に服用させるため、成人における用量の半分を服用するように説明し販売した。
- d 小児は、大人に比べて身体の大きさに対し腸が長く、医薬品の吸収率が相対的に高いことを説明した。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 1 2

一般用医薬品の役割に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 軽度な疾病に伴う症状の改善
- b 生活習慣病の運動療法または食事療法の代替
- c 生活の質（QOL）の改善・向上
- d 健康状態の自己検査

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問13

セルフメディケーションに関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 主役は一般の生活者であるため、情報提供は常に医薬品の販売に結びつけるものとし、医薬品の使用によらない対処を勧めてはならない。
- b 一般用医薬品を一定期間もしくは一定回数使用しても症状の改善がみられないまたは悪化したときには、医師の診察を受ける必要がある。
- c 一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行う必要があるため、専門用語で説明しなければならない。
- d 一般用医薬品販売時の情報提供は、購入者等のセルフメディケーションについて、医薬関係者の一員として、共に取り組むという姿勢で臨むことが重要である。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問14

一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 購入者が適切な医薬品を選択し、適正に使用していくためには、可能な限り、購入者側の個々の状況の把握に努めることが重要である。
- 2 購入者等が自分自身や家族の健康に対する責任感を持ち、適切な医薬品を選択して、適正に使用しようとするよう、働きかけていくことが重要である。
- 3 一般用医薬品の場合、必ずしも情報提供を受けた本人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
- 4 その医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるかについては、購入者にたずねる必要はない。

問15

医薬品の販売等に従事する専門家が購入者から確認しておきたい事項等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、すぐに使用する必要に迫られて購入されるとは限らないが、家庭における常備薬として購入されることがないように注意しなければならない。
- b 基本的な確認ポイントのひとつとして、その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるかが挙げられる。
- c その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないかの確認は特には必要とされない。
- d 症状等がある場合、それはいつ頃からか、その原因や患部等の特定はなされているかに関して、把握に努めることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問16

医薬品の適正な使用のために必要な情報に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品の適正な使用のために必要な情報は、基本的に添付文書や(a)に記載されているが、それらの記載は(b)な内容となっているため、個々の(c)にとって、どの記載内容が当てはまり、どの注意書きに特に留意すべきなのか等について適切に理解することは必ずしも容易ではない。

	a	b	c
1	製品表示	疾患別・具体的	購入者や使用者
2	宣伝広告	疾患別・具体的	登録販売者
3	製品表示	一般的・網羅的	購入者や使用者
4	宣伝広告	疾患別・具体的	購入者や使用者
5	製品表示	一般的・網羅的	登録販売者

問17

サリドマイドおよびサリドマイド訴訟に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a サリドマイド訴訟では、製薬企業が被告として提訴され、国は被告として提訴されなかった。
- b サリドマイドは、鎮咳成分として承認されていた。
- c サリドマイドの光学異性体のうち、S体が血管新生を妨げる作用を有する。
- d 妊娠している女性が、サリドマイドを摂取した事により、胎児に四肢欠損、視聴覚等の感覚器や心肺機能の障害等の先天異常が発生した。

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問18

スモンおよびスモン訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スモン訴訟は、解熱鎮痛薬として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b キノホルム製剤の副作用について、西ドイツ（当時）から警告が発せられていたにも関わらず、日本では販売停止と回収措置の対応の遅さが問題視された。
- c スモンの症状は、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- d 現在では、スモン患者に対し、施術費および医療費の自己負担分の公費負担、重症患者に対する介護事業等が行われている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問19

HIV訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a HIV訴訟は、白血病患者がヒト免疫グロブリン製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- b HIV訴訟は、国および製薬企業を被告として提訴された。
- c HIV訴訟を踏まえ、国は、製薬企業に対し従来の副作用報告に加えて感染症報告を義務づけた。
- d HIV訴訟を踏まえ、血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の充実が図られた。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問20

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）およびCJD訴訟に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所（ b ）内は、どちらも同じ字句が入る。

CJD訴訟は、（ a ）手術等に用いられていた（ b ）を介してCJDに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。（ b ）の原料が採取された段階で（ c ）の一種であるプリオンに汚染されている場合があり、プリオン不活化のための十分な化学的処理が行われないうまま製品として流通し、手術で移植された患者にCJDが発生した。

	a	b	c
1	脳外科	ヒト乾燥硬膜	細菌
2	脳外科	ヒト乾燥硬膜	タンパク質
3	脳外科	ウシ乾燥硬膜	タンパク質
4	呼吸器外科	ウシ乾燥硬膜	細菌
5	呼吸器外科	ヒト乾燥硬膜	細菌

【主な医薬品とその作用】

問 2 1

かぜおよびかぜ薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a かぜは単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群といい、主にウイルスが鼻や喉などに感染して起こる上気道の急性炎症の総称である。
- b かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑え、体内から取り除くもので、総合感冒薬とも呼ばれる。
- c インフルエンザ（流行性感冒）は、かぜと同様、ウイルスの呼吸器感染によるものであり、感染力は強いが重症化することはない。
- d インフルエンザの流行期において、小児用かぜ薬を販売する場合には、解熱鎮痛成分がアセトアミノフェンや生薬成分のみからなる製品の選択を提案することが重要である。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問 2 2

かぜ薬に配合される成分とその配合目的の組み合わせについて、誤っているものはどれか。

	[成分]	[配合目的]
1	グアヤコールスルホン酸カリウム	痰 ^{たん} の切れを良くする。
2	ジフェンヒドラミン塩酸塩	発熱を鎮め、痛みを和らげる。
3	チペピジンヒベンズ酸塩	咳 ^{せき} を抑える。
4	ブロメライン	炎症による腫れを和らげる。

問23

かぜ薬に用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ブロムヘキシン塩酸塩は、痰^{たん}の切れを良くすることを目的としている。
- b リゾチーム塩酸塩は、抗コリン作用によって鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的としている。
- c ノスカピンは、咳^{せき}を抑えることを目的として用いられる。
- d トラネキサム酸を大量に摂取すると、偽アルドステロン症を生じるおそれがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問24

痛みや発熱が起こる仕組み、解熱鎮痛薬の働きに関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 プロスタグランジンは、体の各部位で発生した痛みが脳へ伝わる際に、そのシグナルを増幅することで痛みの感覚を強めている。
- 2 解熱鎮痛薬は、痛みや発熱の原因となっている病気や外傷自体を治すことができる。
- 3 腹痛を含む痙攣^{けいれん}性の内臓痛については、一部の漢方処方製剤を除き、解熱鎮痛の効果は期待できない。
- 4 月経痛（生理痛）は、月経そのものが起こる過程にプロスタグランジンが関わっていることから、解熱鎮痛薬の効能・効果に含まれる。

問 2 5

解熱鎮痛成分に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比べて胃腸障害が起こりにくい。
- 2 アセトアミノフェンは、解熱、鎮痛、抗炎症作用が期待できる。
- 3 サザピリンは、15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も一般用医薬品として使用してはならない。
- 4 ピリン系の解熱鎮痛成分として、アスピリンやサザピリンがある。

問 2 6

解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛成分（生薬成分を除く。）による胃腸障害を軽減させることを目的として、水酸化アルミニウムゲル等の制酸成分が配合されている場合がある。
- b 鎮静作用がある生薬成分として、カノコソウが配合されている場合がある。
- c 発熱によって消耗されやすいビタミンの補給を目的として、メトカルバモールが配合されている場合がある。
- d 鎮痛作用を高める効果を期待して、無水カフェインが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 2 7

主たる有効成分としてジフェンヒドラミン塩酸塩が配合されている睡眠改善薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジフェンヒドラミン塩酸塩は、脳内におけるヒスタミンの作用を抑えることにより眠気を促す。
- b 15歳未満の小児では、神経過敏や中枢興奮などの副作用が起きやすいため、使用を避ける必要がある。
- c 慢性的な不眠症状がある人を対象とするものである。
- d 目が覚めたあとは、注意力の低下や寝ぼけ様症状、判断力の低下等の一時的な意識障害、めまい、倦怠感^{けん}を起こすことはない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 2 8

眠気を促す薬とその成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ブロムワレリル尿素は、胎児に障害を引き起こす可能性があるため、妊婦は使用を避けるべきである。
- b 生薬成分のみからなる鎮静薬であれば、複数の鎮静薬の併用や、長期連用をしてもよい。
- c 寝つきが悪いときの処置として、ジフェンヒドラミン塩酸塩を含む睡眠改善薬とアルコールの併用が推奨される。
- d 不眠に関して、一般用医薬品を使用して対処することが可能なのは、特段の基礎疾患がない人における、ストレス、疲労、時差ぼけ等の睡眠リズムの乱れが原因の一時的な不眠や寝つきが悪い場合である。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 29

カフェインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 乳汁中には移行しないので、授乳期間中の女性が服用してもその母乳を飲む乳児に影響はない。
- b 脳に軽い興奮状態を引き起こす作用を示し、眠気や倦怠感を一時的に抑える効果がある。
- c 胃液の分泌を亢進させる作用があり、胃潰瘍の診断を受けた人は、服用を避ける必要がある。
- d 作用は弱いながら反復摂取により依存を形成するという性質がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 30

鎮痛薬に用いられる成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジプロフィリンは、不安や緊張などの心理的な要因を和らげることを目的として配合される鎮静成分である。
- b ジメンヒドリナートは、延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。
- c メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く、持続時間は短い。
- d ジフェニドール塩酸塩は、排尿困難の症状がある人や緑内障の診断を受けた人では、その症状を悪化させるおそれがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問31

小児の疳^{かん}を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 夜泣き、ひきつけ、疳^{かん}の虫等の症状を鎮めるほか、小児における虚弱体質、消化不良などの改善を目的とする医薬品である。
- b 小児の疳^{かん}は、乾^{かん}という意味もあるとも言われ、瘦^やせて血が少ないことから生じると考えられており、鎮静作用のほか、血液の循環を促す作用があるとされる生薬成分を中心に配合されている。
- c 古くから伝統的に用いられており、作用が穏やかで小さな子供に使っても副作用はない。
- d カンゾウは、主として健胃作用を期待して用いられ、配合量は比較的少ないことが多いが、他の医薬品等から摂取されるグリチルリチン酸も含め、その総量が継続して多くならないよう注意されるべきである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問32

鎮咳去痰薬に用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ノスカピン塩酸塩は、モルヒネと同じ基本構造を持ち、依存性を有する麻薬性鎮咳成分である。
- b メチルエフェドリン塩酸塩は、気管支拡張作用により、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- c グアイフェネシンは、気道粘膜からの分泌を促進させることにより、痰の切れを良くする目的で用いられる。
- d リゾチーム塩酸塩、トラネキサム酸、グリチルリチン酸二カリウム等が気道の炎症を和らげることを目的として配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問33

咳止めや痰^{たん}を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤のうち、構成生薬としてカンゾウを含まないものはどれか。

- 1 半夏厚朴湯^{はんげこうぼくとう}
- 2 柴朴湯^{さいぼくとう}
- 3 麦門冬湯^{ばくもんどうとう}
- 4 麻杏甘石湯^{まきょうかんせきとう}
- 5 神秘湯^{しんぴとう}

問34

口腔咽喉薬^{くわう}およびうがい薬^{そう}（含嗽薬）に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ヨウ素系殺菌消毒成分が口腔内^{くわう}に使用される場合、バセドウ病や橋本病などの甲状腺疾患の診断を受けた人では、その治療に悪影響（治療薬の効果減弱など）を生じるおそれがある。
- b クロルヘキシジングルコン酸塩が配合された含嗽薬^{そう}については、口腔内^{くわう}に傷やひどいただれのある人では、強い刺激を生じるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
- c ベンゼトニウム塩化物は、声がれ、喉の荒れ、喉の不快感、喉の痛みまたは喉の腫れの症状を鎮めることを目的として用いられる。
- d グリセリンは、口腔内^{くわう}や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問35

止瀉薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 木クレオソートは、殺菌作用のほか、局所麻酔作用もあるとされる。
- b ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬は、食あたりや水あたりによる下痢の症状に用いられることを目的としている。
- c 腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として、沈降炭酸カルシウムが配合されている場合がある。
- d タンニン酸アルブミンに含まれるタンニンは、牛乳に含まれるタンパク質（カゼイン）から精製された成分であるため、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問36

胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}の使用および医療機関への受診勧奨に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 痛みが次第に強くなる、原因不明の痛みが30分以上続く等の場合には、医師の診療を受けるまでの当座の対処として一般用医薬品の胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}を使用することが望ましい。
- b 血尿を伴って側腹部に痛みが生じた時は、腎臓や尿路の病気が疑われ、これらについて胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}を使用することは適当でない。
- c 下痢に伴う腹痛については、胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}を使用することが適当である。
- d 小児では、内臓に異常がないにもかかわらず、へその周りに激しい痛みが繰り返し現れることがあり、長時間頻回に腹痛を訴えるような場合には、医療機関に連れて行くなどの対応が必要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問37

駆虫成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a サントニンは、回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- b カイニン酸は、回虫に痙攣^{けいれん}を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- c リン酸ピペラジンは、^{ぎょう}蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされる。
- d パモ酸ピルビニウムは、アセチルコリン伝達を妨げて、回虫および^{ぎょう}蟯虫の運動筋を麻痺^ひさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問38

強心薬の配合成分等に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ロクジョウは、シカ科のマンシュウアカジカまたはマンシュウジカの雄のまだ角化していない、もしくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- b センソは、ウシ科のウシの胆嚢^{のう}中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- c リュウノウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。
- d ゴオウは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、微量で強い強心作用を示す。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 39

高コレステロール改善薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高コレステロール改善薬は、血中コレステロール異常の改善、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和等を目的として使用される。
- b 大豆油不^{けん}飽化物（ソイステロール）には、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c ポリエンホスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- d パンテチンは、LDL等の異化排^{せつ}泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、HDL産生を高める作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問40

貧血用薬（鉄製剤）およびその配合成分に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 鉄製剤を服用すると便が白くなることがある。
- 2 貧血の症状がみられる以前から予防的に貧血用薬（鉄製剤）を使用することは適当でない。
- 3 コバルトは、糖質・脂質・タンパク質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- 4 マンガンは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。

問41

循環器用薬に配合されるユビデカレノンに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分である。
- b コエンザイムQ10とも呼ばれる。
- c 心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされる。
- d 小児において心疾患による動悸、息切れ、むくみの症状があるような場合に適用される。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問42

循環器用薬および配合される成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 ヘプロニカートは、ビタミンEと組み合わせて用いられる場合が多い。
- 2 高血圧や心疾患に伴う諸症状に使用される一般用医薬品は、体質の改善または症状の緩和ではなく、いずれも疾患そのものの治療を目的として用いられる。
- 3 三黄瀉心湯^{さんおうしやしんとう}は、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人、だらだら出血が長引いている人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすいため、不向きとされる。
- 4 ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。

問43

痔^じおよび痔疾用薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 直腸粘膜には知覚神経が通っていないため、直腸粘膜にできた内痔核^じは自覚症状が少ない。
- b 痔瘻^{じろう}は、肛門^{こう}に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内^{こう}にいぼ状の腫れが生じた状態である。
- c 止血成分であるメチルエフェドリン塩酸塩が配合された坐剤^ざについては、交感神経系に対する刺激作用によって、糖尿病や高血圧を悪化させるおそれがある。
- d 外用痔疾用薬^じのなかには、局所麻酔成分としてヒドロコルチゾン酢酸エステルを含むものがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 4 4

婦人薬および女性に現れる特有な諸症状に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 内服で用いられる婦人薬は、比較的作用が穏やかで、ある程度長期間使用することによって効果が得られるとされる。
- 2 桂枝茯苓丸^{けいしぶくりょうがん}は、体力虚弱で、冷え症で皮膚が乾燥、色つやの悪い体質で胃腸障害のないものの月経不順、月経異常、更年期障害、血の道症、冷え症、しもやけ、しみ、貧血、産後あるいは流産後の疲労回復に適するとされる。
- 3 温清飲^{うんせいいん}は、体力中等度で皮膚はかさかさして色つやが悪く、のぼせるものの月経不順、月経困難、血の道症、更年期障害、神経症、湿疹^{じん}・皮膚炎に適するとされる。
- 4 月経痛について、年月の経過に伴って次第に増悪していくような場合や大量の出血を伴う場合には、子宮内膜症などの病気の可能性がある。

問45

内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）に関する記述について、
 （ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇
 所の（ a ）内は、どちらも同じ字句が入る。

内服アレルギー用薬は、蕁麻疹^{じんしん}や湿疹^{しん}、かぶれおよびそれらに伴う皮膚^{かゆ}の痒
 みまたは鼻炎に用いられる内服薬の総称で、（ a ）成分を主体として配合
 されている。

また、（ a ）成分に、急性鼻炎、アレルギー性鼻炎または副鼻腔炎^{くう}によ
 る諸症状の緩和を目的として、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる（ b ）成
 分や鼻汁分泌やくしゃみを抑える（ c ）成分等を組み合わせて配合され
 たものを鼻炎用内服薬という。

	a	b	c
1	抗コリン	アドレナリン作動	抗ヒスタミン
2	抗ヒスタミン	抗コリン	アドレナリン作動
3	アドレナリン作動	抗ヒスタミン	抗コリン
4	抗ヒスタミン	アドレナリン作動	抗コリン
5	アドレナリン作動	抗コリン	抗ヒスタミン

問46

鼻に用いる薬の配合成分とその目的とする作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a フェニレフリン塩酸塩は、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示し、花粉、ハウスダスト（室内塵）等による鼻アレルギー症状を緩和する。
- b ケトチフェンは、ヒスタミンの働きを抑えることにより、くしゃみや鼻汁等の症状を緩和する。
- c テトラヒドロゾリン塩酸塩は、交感神経系を刺激して鼻粘膜を通っている血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる。
- d リドカインは、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止する。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 4 7

点眼薬の使用にあたっての一般的な注意事項に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点眼薬は、通常、無菌的に製造されているため、別の人との共用も何ら支障がない。
- b コンタクトレンズをしたままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されていない限り行うべきでない。
- c 点眼後は、数秒間まぶたを閉じて、薬液を結膜囊^{のう}内に行き渡らせる。その際、目頭を軽く押さえると、薬液が鼻腔^{くう}内へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされる。
- d 1滴の薬液量は、結膜囊^{のう}の容積より小さいため、一度に数滴点眼すると効果的である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 4 8

点眼薬に用いられる配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、アセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- b ビタミンEは、アミノ酸の代謝や神経伝達物質の合成に関与していることから、目の疲れ等の症状を改善する効果を期待して用いられる。
- c パンテノールは、自律神経系の伝達物質の産生に重要な成分であり、目の調節機能の回復を促す効果を期待して用いられる。
- d クロルフェニラミンマレイン酸塩は、鼻炎用点鼻薬と併用した場合には、眠気が現れることがあるため、乗物または機械類の運転操作を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問49

殺菌消毒成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アクリノールは、真菌、結核菌、ウイルスに対しては効果がない。
- b クロルヘキシジン塩酸塩は、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用がある。
- c ポビドンヨードは、ヨウ素およびヨウ化カリウムをエタノールに溶解させたもので、皮膚刺激性が強く、粘膜（口唇等）や目の周りへの使用は避ける必要がある。
- d レゾルシンは、細菌や真菌類のタンパク質を変性させることにより殺菌消毒作用を示す。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問50

フェルビナクに関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 鎮痛等を目的として、筋肉痛、関節痛、打撲等に用いられる。
- 2 皮膚の下層にある骨格筋や関節部まで浸透してプロスタグランジンの産生を抑える作用を示す。
- 3 殺菌作用はないため、皮膚感染症に対しては効果がない。
- 4 抗ヒスタミン成分として配合される。

問51

抗真菌作用を有する配合成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 エコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させる。
- 2 テルビナフィン塩酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げる。
- 3 ウンデシレン酸は、皮膚糸状菌の細胞膜に作用して、その増殖・生存に必要な物質の輸送機能を妨げる。
- 4 ピロールニトリンは、菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。

問52

肌の角質化、かさつき等を改善する外皮用薬の配合成分とその特徴について、正しいものの組み合わせはどれか。

[配合成分]	[特徴]
a 白色ワセリン	頭皮の落屑（ふけ）を抑える効果を期待して、毛髪用薬に配合されている場合がある。
b サリチル酸	角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示す。
c イオウ	皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
d 尿素	抗菌、抗真菌、抗炎症作用を期待して、にきび用薬等に配合されている場合がある。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 5 3

歯槽膿漏薬（内服薬）に含まれている成分と配合目的に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用のほか、歯肉炎に伴う口臭を抑える効果も期待して、銅クロロフィリンナトリウムが配合されている場合がある。
- b 炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して、血液の凝固機能を正常に保つ働きがあるビタミンEが配合されている場合がある。
- c 毛細血管を強化し、炎症による腫れや出血を抑える効果を期待して、ビタミンCが配合されている場合がある。
- d 歯周組織の血行を促す効果を期待して、ビタミンK 1が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問54

ニコチンを含む禁煙補助剤（咀嚼剤）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 使用期間は6ヶ月を目途とし、1年を超える使用は避けることとされている。
- b 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料などを摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
- c 顎の関節に障害がある人では、使用を避ける必要がある。
- d 噛むことにより口腔内でニコチンが放出され、口腔粘膜から吸収されて循環血液中に移行する。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 5 5

滋養強壯保健薬に配合されるビタミン成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ビタミンAは、赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- b ビタミンB6は、体内の脂質を酸化から守り、細胞の活動を助ける栄養素であり、血流を改善させる作用もある。
- c ビタミンDは、腸管でのカルシウム吸収および尿細管でのカルシウムの再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。
- d ビタミンB2は、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問56

消毒薬および殺菌消毒成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 有機塩素系殺菌消毒成分は、金属腐食性が極めて高い。
- b 次亜塩素酸ナトリウムは、皮膚刺激性が強いため、通常人体の消毒には用いられない。
- c 酸性の消毒薬が誤って目に入った場合、アルカリで中和した後、流水で十分に（15分間以上）洗眼する。
- d 消毒薬は成分や濃度にかかわらず、すべて医薬品としてのみ製造販売されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問57

衛生害虫の防除に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 ゴキブリの卵は医薬品の成分が浸透しやすい殻で覆われているため、燻蒸処理を一度行えば十分な殺虫効果が期待できる。
- 2 トコジラミは、体長が比較的大きい（成虫で約8mm）ので、電気掃除機で吸引することによる駆除も可能である。
- 3 屋内塵性ダニは、一定程度まで生息数を抑えれば保健衛生上の害は生じないので、増殖させないということを基本に防除が行われることが重要である。
- 4 ハエの防除の基本は、ウジの防除であり、ウジの防除法としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。

問58

妊娠検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ^{じゅう}絨毛細胞が腫瘍化している場合には、妊娠していなくてもヒト^{じゅう}絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）が分泌され、検査結果が陽性となることがある。
- b 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日が過ぎて概ね1週目以降の検査が推奨されている。
- c 尿中hCGの検出反応は、hCGと特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であるため、温度の影響を受けることがある。
- d 検体としては、尿中hCGが検出されやすい就寝前の尿が向いている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問59

皮膚に用いる薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 軟膏^{こご}剤は、薬剤を容器から直接指に取り、患部に塗布したあと、また指に取ることを繰り返すと、容器内に雑菌が混入するおそれがあるため、いったん手の甲などに必要量を取ってから患部に塗布することが望ましい。
- b パップ剤は、患部やその周囲に汗や汚れ等が付着した状態で貼付すると、有効成分の浸透性が低下するほか、剥がれやすくなるため十分な効果が得られない。
- c スプレー剤は、使用上の注意に従い、患部から十分離して噴霧し、また、連続して噴霧する時間は3秒以内とすることが望ましい。
- d エアゾール剤は、吸入によりめまいや吐きけ等を生じることがあるので、できるだけ吸入しないよう十分注意して使用する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問60

口内炎および口内炎用薬に配合される成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 口内炎は、口腔粘膜に生じる炎症で、口腔の粘膜上皮に水疱や潰瘍ができて、ときに口臭を伴う。
- 2 疱疹ウイルスの口腔内感染による場合や、医薬品の副作用として口内炎を生じる場合もある。
- 3 シコンは、ムラサキ科のムラサキの根を基原とする生薬で、組織修復促進、抗菌などの作用を期待して用いられる。
- 4 口腔粘膜の組織修復を促す作用を期待して、セチルピリジニウム塩化物が配合されている場合がある。